

OPENING

SGEC / PEFC JAPAN
JAPAN

全国自治体ネットワーク会合 | 2026.06.25 | ZOOM

REPORT / No 01 — 長野県東信地域からの提言

都市木質化に向け

長野県東信 “信州カラマツ” SGEC化への 挑戦。

PRESENTED BY

「東信SGEC 材連絡会議」／副代表世話人

| 齋藤木材工業（株）／長野県信州ウッドコーディネーター |

SPEAKER 陰山 恭男

東信
挑戦

信
州
・
東
信

長野県の“信州カラマツ”を 国際認証材として再起動する。

No 01

いま世界が
“証明”を
求め始めた

EUDR・サステナブル金融・
非住宅木造化

東信SGEC材連絡会議 / 事務局・東信木材センター

No 02

東信は
首都圏直結の
カラマツ産地

資源量 全国2位、
首都圏まで車で2.5時間

No 03

“取った認証”を
“動かす認証”へ

FM 42 ・ CoC 18 ・ 関連 7
団体が一堂に

No 04

市町村 FMとCoC
の一体化こそが、
変革再起動のキー

公有林FM保有者＝
市町村のあなた方

SGEC認証は取った。 でも、動かなかった。

CAUSE 01

オリパラで取得は進んだ

2014年以降、FM・CoC認証が東信地域で順調に拡大。形は整った。

CAUSE 02

以降需要は"ほぼ無し"

国内市場で認証要求は弱く、**認証コスト**だけが残った状態。

CAUSE 03

ガラパゴス化だったjp

フェアトレード、持続可能性が世界的に進化するにもかかわらず**その必要性の認識**が希薄だったのか？

SGEC“取った”時代から いま“動かす”時代に。

2021

オリパラ後

認証取得は進んだが、
需要は伸び悩んだ。

CHAPTER 01 / 世界の潮目

2025 – 2026

いま – **潮目転換**

EUDR・金融・木造化が
同時進行。“証明”が条件に。

2030 →

明日 – **必然の時代へ**

国際認証材SGECが、
木造ビルの必須条件へ。

世界は、"証明された木材"を 必然化した⇒遅れて日本にも

No 01 EU

EUDR

欧州森林破壊防止規則

EUは木材を含む7品目で、
森林減少フリーの
証明を義務化。

No 02 CAPITAL

サステナブル 金融

投資判断における素材調達基準

建築投資ファンドが、
構造材のデューデリ
を問いはじめた。

No 03 BUILDING

非住宅木造化 での環境建築

脱炭素・木材利用促進法・建基法

公共・倉庫・商業施設で
1兆円規模の木質系化
市場へ拡大に向かう。

「認証林率」 日本 10% / 世界 80%。 この差は、致命的だ。

JAPAN / 日本の認証林率

10%
前

EUROPE & N.AMERICA / 世界の認証林率

80%
前

スウェーデン 82%
フィンランド 86%
ドイツ 82%
オーストリア 84%

非住宅主要構造材として、 カラマツに代わりはいない。

SPEC 01

高強度

スギの
約1.2倍の曲げ強度
国産針葉樹で最高クラス
建築高層化は材強度向上で実現

SPEC 02

高耐久耐火

芯材は腐朽菌に強く
密で度が高く耐火性も高
い
長期使用に耐える耐久性

SPEC 03

大径化

9齢級・45年生以上が
大半－伐期到達
今こそ"使い時"

SPEC 04

国際的採用

有明体操競技場・
有明西学園等で実証
東信産カラマツ集成材で実装

日本のカラマツ、 4分の1は長野県。

STAT 01 RESOURCE

24 %

長野県が占める
全国カラマツ人工林比率

STAT 02 DOMINANCE

55 %

県内人工林に占める
カラマツの割合

STAT 03 ACCESS

2.5h車で

首都圏直結—新幹線1.3時間
輸送最短アクセスの産地

中央道・上信越道で東京圏 まで

長野県のカラマツ 約7割は東信地域から出材。

NAGANO / 4 REGIONS MAP



北信
長野市・飯山市ほか

中信
松本市・木曽ほか

東信
佐久・上田・小諸ほか

南信
諏訪・伊那・飯田ほか

ACCESS

東信 → 東京 車約2.5時間

SHARE / カラマツ素材生産量（令和4年）

長野県カラマツ生産量 約12.7万³m / 年



66%

= 長野県カラマツの
3分の2は東信から。

東信地域、4市・8町村の 公有林が、地域認証林を支える

長野県東信地域

上小地域

上田市 / 東御市
長和町・青木村



佐久地域

小諸市 / 佐久市
小海町・佐久穂町・川上村
南牧村・軽井沢町
御代田町・立科町

FACTS

12市町村

4市・8町村が連携

1.37万ha

東信のマツ類人工林

9齡級↑

45年生以上が大半

FM 42

公有林FM保有者中心

拠点：東信木材センター 年間 12万 m^3 を捌く、 首都圏直結のカラマツ出荷基地。



FY 2024 / 令和6年度事業実績

2024.04.01 — 2025.03.31

事業区分	販売数量	売上金額
受託材	62,415 m^3	10.4億円
買取材	54,114 m^3	7.9億円
加工品	3,447 m^3	3.3億円

出典：東信木材センター協同組合連合会「令和6年度事業実績」（2024年4月1日～2025年3月31日）

SCALE

年間取扱量 約 12万 m^3

＝ 大型車両 約12,000台分

東信地域から原木を集め、
木材事業者へ橋渡しする**流通ハブ**。
SGEC材の出入り口を担う。

都市は国産認証木材でつくる時代へ。 市場が国産木質を！追って認証を求めはじめた！

東京2020オリパラの主要施設、そして東京有明の小中学校 — どちらも構造・内装に
長野県東信地域産カラマツ集成材が大量採用された。東信地域の森林が、首都の暮らしを支えている
構造ベニア市場、LVL市場、構造集成材市場が認証を模索しはじめた！



屋根構造材：長野県東信産カラマツ集成材



壁・階段・内装：長野県東信産カラマツ集成材

だが地域にFMとCoCを一堂に 束ねる仕組みが無かった。

01 連携

WALL 01

FMとCoCで、出材・需要情報が共有されていなかった

02 時期

WALL 02

月別の発注タイミングと出材タイミングのズレが機会損失に

03 情報

WALL 03

求められる国際認証の必要性が、十分現場まで届いていなかった

04 損失

WALL 04

認証材での価格向上機会損失や、受注機会損失という地域に育っていなかった。

年間・計画的な安定供給こそが、SGEC供給 価格交渉、商機の最大の武器になるが。

DEMAND / 需要は二層構造

①年間平準の合板大ロット＋②建築ロットは変動
的

合板＋LVL / 計画需要

構造合板は年間通じて平準供給が必須。

非住宅建築 / 案件需要

案件毎に需要量変動するが予測対応必須。

この両方に応えられて、はじめて
価格交渉の主導権が売り手に来る。

REALITY / 長野県カラマツの実態

現在県内素材生産量の **過半** が

構造用合板
フェース／バック材

LVL
単板積層材の原料

＝大量・安定需要を前提とした
合板用B材主体の販路が地域を支えている。

不安定・偏在出材
がもたらす代償

① 価格交渉が不利

出材が秋冬に集中・不安定だと、買い手主
導の安値になりやすい。

② 販売計画が立たない

数量変動が大きく、年間契約・長期商談に
踏み込めない。

③ 大型非住宅に応えられない

大ロット案件に対し、出材予定が組めない
工程が組めない＝商機を逃す。

分散の地域を現状分析し方策立案するチームが必要ではないのか？

SURVEY 01 / FM 山主

42団体

FM

- ◇ 月別出材計画
- ◇ 年間出材量
- ◇ 樹種・径級分布
- ◇ 発注要因

SURVEY 02 / CoC 加工

18団体

CoC

- ◇ 月別需要時期
- ◇ 受入可能量
- ◇ 調達重視項目
- ◇ 認証材プレミアム

SURVEY 03 / 関連団体

7団体

団体

- ◇ 支援メニュー
- ◇ 共有可能情報
- ◇ 研修・調査ニーズ
- ◇ 補助制度との連動

地域を束ね、地域が、チームになる。2025.06創立

EST. 2026

「東信SGEC材連絡会議」コア集結し創立

WHY / なぜ設立したか

「SGEC 信州カラマツ」を、
都市木造ビル時代に向けた
建築ブランド確立するために。



▲ コアメンバー会議の様子（東信木材センター）

ROADMAP / これからの3手

01 全FM・全CoCを
一堂に。

02 時代のニーズを
共有する。

03 地域一体化への
総意を結集する。

FMとCoCが、2025.11.14 初めて一堂に！全員会議 （参集者≒100名）

2025.11.14 / 佐久

第1回 全体会議 パネルディスカッション



出典：東信SGEC材連絡会議 規約（令和8年3月28日施行）

CONSORTIUM / 東信SGEC材連絡会議

地域全体で認証材を動かす 初めての枠組みの萌芽

FM / 山側

42 団体

市町村有林・財産区

CoC / 施業-加工

18 団体

施業者＋製材工場

関連団体

7 団体

林業関連団体

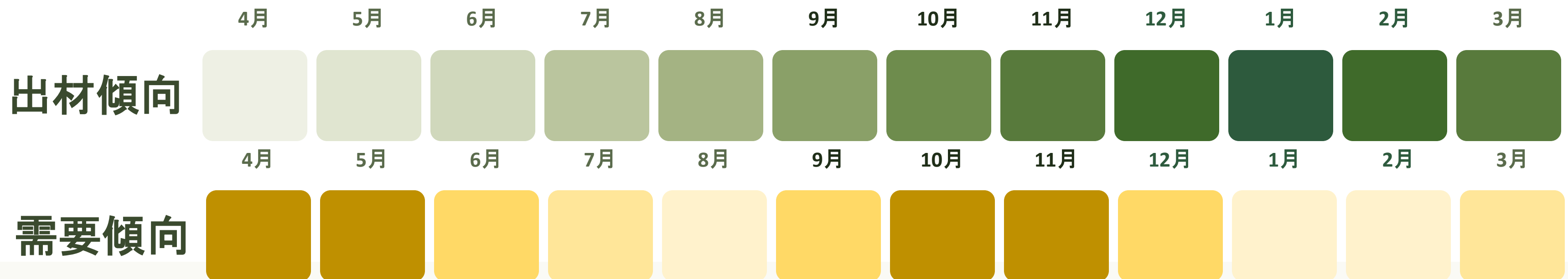
長野県小諸市ステラホール

課題例:出材と需要のミスマッチ。

秋冬季の伐採が、東信林業の基本リズム。

SEASONAL / FM 出材の月別傾向（概念図）

※ 林業の一般的な傾向を示す概念図 / 東信地域の実数値は2026年度アンケート本集計で確定



なぜ？

冬は樹木が休眠期に入り、含水率が下がる — 木材の乾燥が早く、腐りにくい。北海道や長野でも、12～1月が伐採の最盛期。

出材時期と、需要時期が、 未連携でずれている。

▲ 重要度 高

No 03

安定的出材を可能とする
地域標準化方策策定

中長期で取り組む

◀ 容易性 低

No 01

最優先

月別需給ボードの整備

すぐ効く、連絡会議の核

容易性 高 ▶

No 04

安定供給で価格向上
供給モデルの再設計

市場と段階的に更新

No 02

情報共有フォーマットで
地域の認識と連携強化

中期で展開可能

▼ 重要度 低

詳細調査実施中、分析し 見える化して、**束ねて**、つなぐ。

WG-1

FM、CoC現況の 見える化分析WG

- ◇ 月別需給ボード分析
- ◇ 問題点の抽出と共有解決
- ◇ 月次ダッシュボード

WG-2

需給の平準化 WG

- ◇ 地域の発注受注流通の解析
- ◇ 山積みの平準化対策
- ◇ ベースロードと特需対応

WG-3

国有林連携 WG

- ◇ 東信地域あげての要望
- ◇ 公的セクター連携
- ◇ 安定供給源の拡張

WG-4

対内外発信、交渉 WG

- ◇ 首都圏発注者向け提案
- ◇ 地域への最新情報発信
- ◇ 投資家向け広報

東信SGEC材を、5ステップで動かす。現在鋭意進行中です！



CLOSING

2026.06.25

№ 22 / CALL TO ACTION

認証を"取る" から、地域で "動かす"へ。

東信から、「信州カラマツ国際認証化」を前に
進めるチャレンジです。公有林を持つ全国の
市町村の皆さま、**共に動かしましょう。**

代表世話人：小相沢 徳一（東信木材センター専務理事）

CONTACT / 事務局

東信SGEC材連絡会議 | 事務局：東信木材センター

